

第34号

発行 日本詩吟協本部総本部
編集 広報編集委員会〒125-003
東京都葛飾区鎌倉1-2-4 (岡村)
TEL 03-3673-9237
携帯 090-7273-7735
FAX 03-3673-9237
郵便振替 00170-1-72817より高く
より広く
より大きく

日詩協

ご挨拶

日本詩吟協会総裁 富澤龍吟



コロナ禍の中、日本中の人々は行動が制限され買い物さえままならぬ四年間でしたが、本年五月コロナは第五類へ移行され、行動制限が緩和されました。依って、各団体は以前のように、

様々な行事が開催される様になりました。既にご案内が届いて居ると思いますが、日本詩吟協会も例年通り六会場に於いてコンクール予選会を開催致します。然し乍ら、コロナ感染症の影響に加え、会員の高齢化により、詩吟人口の減少が起こっております。私達は、肉体と精神が健康でなければ楽しい人生を送る事が出来ません。その為には、適度な運動、バランスの取れた食事、社会活動への参加等が必要不可欠となります。

詩吟は複式呼吸により発声しますので、爽快感と充実感が得られ、更には、名詩、名吟に触れ、感動の心、精神が培われます。

日本詩吟協会は、コンクールを始め、新春吟詠の集い等の各種行事を開催致します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。そして、皆様のご協力を頂き乍ら吟界の発展に寄与して参りたく存じます。何卒宜しくご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

所感

日本詩吟協理理事長 岡村心蒼



コロナ禍にて不要不急のレッテルを貼られ混乱と不自由さを痛感した詩吟界も漸く、コンクールや大会が各地で開催され平常に戻りつつある状態に回復致しました。

この度、会長就任以来、数々の功績を残し海老澤宏升会長がその任務を全うされ八月十二日の「総会」にて名誉会長に就任することが決議承認されました。それに伴い慎重審議の結果、今後の協会運営は新会長を任命せず総裁を含めた総本部実行委員会に最終決裁を仰ぎながら、総本部役員常任理事による合議で全手を運営して行くことになりました。現在総本部役員常任理事は理事長と副理事長八名、総本部常任理事七名による十六名で構成され、毎月第一月曜日から午後六時から定例会として定期的に開催しております。

世の中には多種多様な団体等が多々ありますが、日詩協は趣味の団体であり「会員相互の親睦と吟詠の普及発展に寄与することを目的にする」と会則に明記してあります。

日詩協の会員になって「吟詠を通して友人と出会い、明るく楽しい人生を歩みたい」との思いに添うため役員一同協会行事の内容を更に検討、充実させ、日詩協の会員であることに誇りと存在感を持てる会にしたいと考えています。これから言うまでもなく健康が大事です。同居している家族の健康。特に配偶者についてはいずれかが健康を害し要介護になってしまうと趣味の継続は難しくなります。くれぐれも日頃から健康管理(暴飲暴食、ストレス、睡眠)に万全を期していただきたいと思えます。



「第三十四回」日本詩吟選手権大会開催

文部科学大臣賞
日本詩吟協会総裁賞
日本詩吟協会会長賞

野口節生さん(神奈川県)
平田清喜さん(福島)
岩田裕美さん(東京)



文部科学大臣賞
野口節生さん



日本詩吟協会総裁賞
平田清喜さん



日本詩吟協会会長賞
岩田裕美さん

第三十四回、日本詩吟選手権全国決選大会(主催―日本詩吟協会総本部)は東京都墨田区曳舟文化センターホールに於いて、五月十四日(日)開催された。

競吟は全国の予選大会を勝ち抜いた百二十七名によって競われたもので、結果は優勝文部科学大臣賞を昨年三位の野口節生さん(深粹流深粹会)準優勝日本詩吟協会総裁賞は平田清喜さん(神道流吟詠会)第三位日本詩吟協会会長賞に岩田裕美さん(宏升流宏升会)がそれぞれ受賞しました。

審査基準は正しい発声による的確な詩心表現と音楽性を重視、厳正なる審査を経て入賞者を選出した。ここ数年の大会でも大接戦となった。(次ページ得点表参照)

当コンクールでは、吟題自由(俳句、和歌、近体詩、自作絶句)読みも流派派のものとし、更に公平な審査を考慮し一次審査は本数別審査を導入、各本数別上位優秀吟者が最終審査に進出した。

吟じ易い伴奏曲(協会指定十三曲―静・麗・雄・烈・哀・彩・凜・

涼・剛・唐・俳・静短・涼短)を自由に選曲。

更にハンドマイク使用も認められる。しかし上位入賞をめざすには吟詠の基本をしっかりと習得し、更に個性豊かでメリハリのあるスケールの大きな吟詠が望まれます。

今大会は、新型コロナ感染もようやく落ち着いていた中で開催された。参加予定者の欠場が目立った昨年と異なり会場は大いに盛り上がり熱気に包まれました。

尚、一般成人の部競吟の前に幼少年の部(幼児から小学生まで)と中学・高校の部の競吟が行われた。小さな体でマイクの前に立って一生懸命、天真爛漫に声を張り上げて吟じる姿に思わず胸が熱く感じたのは私だけではないと思います。

(大会実行委員長 岡村心蒼)



第34回 日本詩吟選手権全国大会成績表

日時 令和5年5月14日(日) 会場 東京都墨田区曳舟文化センターホール

(最終決勝) (第1位) 文部科学大臣賞
(第2位) 日本詩吟協会総裁賞
(第3位) 日本詩吟協会会長賞

一般総合の部

順位	出吟者名	審査員名											合計
		審査委員長 富澤	審査委員長 横山	星野	金子	岩淵	勝部	江花	志田	薄井	峰	後藤	
1	野口節生	93	92	95	92	95	89	94	93	94	92	87	1016
2	平田清喜	92	91	91	90	94	93	93	92	92	91	93	1012
3	岩田裕美	91	90	95	90	90	94	91	93	88	90	90	1002
4	杉本江美	92	88	89	88	89	94	94	91	91	91	91	998
5	加藤加代子	92	89	90	91	93	90	91	91	92	91	86	996
6	荒木優子	92	89	90	90	91	91	89	92	90	89	92	995
7	原田理絵	93	90	88	91	87	91	90	93	95	89	87	994
8	山本津多子	93	89	88	87	92	88	93	91	92	88	90	991
9	土方圭秀	92	87	88	92	92	91	90	92	92	89	86	991
10	中嶋正則	91	88	91	89	90	90	91	90	91	88	91	990

※同点の場合は審査委員長の点数の高い方を上位とする。



中学・高校の部

中嶋正利さん	土方圭秀さん	山本津多子さん	原田理絵さん	荒木優子さん	海老澤宏升会長	富澤龍吟総裁	加藤加代子さん	杉本江美さん	岩田裕美さん	平田清喜さん	野口節生さん
--------	--------	---------	--------	--------	---------	--------	---------	--------	--------	--------	--------



幼少年の部

日本詩吟協会定期総会

日時 二〇二三年八月十二日(土)
会場 曳舟文化センター
総会成立宣言

齋藤副会長に開会の辞、富澤総裁及び海老澤会長の挨拶を頂いた。海老澤会長の挨拶の中で、『本総会の承認を待って、会長を退任したい』旨の表明があり、会長就任以来九年度の報告があった。その後、会則に従い海老澤会長を議長に選任、各議題につき、審議が行われた。

本総会における審議事項の要点は以下の通り。
一、二〇二二年度の事業及び収支決算、監査報告。
二、二〇二三年度の事業計画及び収支計画。
三、芸術祭典『蝉しぐれ』及び各開催事業の会計報告。

引き続き、以下の三件について、報告、検討が行われた。
一、入退会者の報告と新入会者の自己紹介。
二、新人事が提示された。要点は以下の通り。
* 日誌協運営役員、各大会運営役員、所属地区別会員一覧表、会員名簿。
* 日誌協の組織が、『会長制度』から『理事長制度』に変更となることに伴い、海老澤会長が『名誉会長』、齋藤及び金

子副会長が『相談役』に就任する。
三、会則、細則及び運営機構図の改訂。
(組織変更に伴う改訂)

以上の審議事項及び報告・検討事項は、挙手を持って承認された。
その他

一、岡村理事長より、今後の基本運営方針の説明がなされた。
二、日本詩吟選手権大会は従来通り実施することを確認した。

三、来年に実施予定であった『日誌協・創立記念祝賀会』を四十周年に延期することとなった。
以上の三件についても、承認された。
(記/三浦暁泉)

新副理事長就任にあたり

副理事長

長谷川 聖 漲

日誌協との出会いは岡村心蒼理事長の推薦により二〇一〇年(平成二十二年)四月に入会しました。

入会して、初めての新春吟詠の集いにはビックリしました。すばらしい吟をされる人達が多いのに驚きました。そして良い会には入れたとの思いでした。

もともと人見知りの激しい私ですが早く皆さんの仲間になりたくて、動くのは好きです。行事に、懇親会(お酒が好きなのです)には積極的に参加しました。

そして、二〇一五年運営部局理事として、毎月一回の常任理事会に出席、会の運営に携わることになりました。会長、理事長、副理事長(十名)現在十五名)にて働きパチ以上に働き、また、活発な議論があり、まずやって見よう、もしダメなら止めればよいという自由な発想があり、日誌協ならではの言うものが生まれているようです。

本数別コンクール、コンクールコメントの発表、コンクール運営上のデジタル化、全国大会における審査委員点数の揭示、等々。

二〇一八年千葉南部会計部長、二〇二一年千葉南部実行委員長を経て今回副理事長を拝命しましたが益々仕事が増えるかと認識しています。理事長がよく口にします。楽しくなければと、趣味の世界です。新型コロナナウイルスという予測不可能な事があり、会員減少の心配がありました。本当に詩吟の好きな仲間たちと楽しい会を作り上げていければと思っています。これからもサービスピス精神を一杯出し切って会の運営に役立てるように奮闘致します。

副理事長

渡部 鳳 堂

日本ばかりでなく、世界で酷暑に悩まされ、熱中症で命を落としている人々が沢山あります。日本詩吟協会の会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

この度、私、渡部鳳堂が副理事長に推挙されたことご報告を受け身に余るご配慮に、只々恐縮しております。詩吟は、日本の美しい伝

統芸術であり、その歴史と魅力を未来に繋いでいくことが重要だと考えております。

私はこれまで、詩吟の道を歩んできた中で、多くの素晴らしい先輩方に支えられ成長してまいりました。今後は、その経験を活かし、新たな一歩を踏み出す若手の方々にサポートし、次世代を担う若手の育成に力を注いでいきたいと考えております。

昨年六月に、三代目宗家を襲名し、若輩ながらも神道流吟詠会を守り、進んでいくことを心に誓った矢先に、父である二代目宗家が十二月十日に逝去し、心が癒えぬまま、七カ月があつという間に過ぎてしまいました。今になって父の偉大さを痛感させられている毎日です。父の几帳面さ、真面目さ、やさしさは、私たち家族にとって、決して忘れることのできない宝物です。今後は一歩でも父に近づける様に、努力していきたいと思っております。幸い家族はもとより、背中を押してくれる神道流の会員の皆様がおります。精一杯頑張っていこうと思っております。

終わりに、日本詩吟協会の発展に、微力ですがございますが、少しでもお役に立てばと心から思っております。

今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。



第34回日本詩吟選手権 首都圏決選大会を終えて

首都圏決選大会実行委員長 武田誠風

予選会の応募案内を発送した時期は、まだまだ新型コロナの感染が収まらず、あれこれと懸念事項が多く開催も危ぶまれました。

募集締め切り時期が迫る中、矢張り応募者の申込に影響が出ており、首都圏6地区の役員必死に連絡を取り合い、又各地域の流派・会派の先生方の応援を頂き、大勢の門下生を送って頂き各予選会が盛大に開催出来ました。この時期に温かい御支援・ご協力頂だき誠に有難うございました。

首都圏六地区予選会の結果は総勢二〇〇名が選出されました。

三月二十五日(土)曳舟文化センター大ホールにて首都圏決選大会が行われました。

予選会を勝ち抜いた吟者にとって1点差を競うハイレベルな決選大会となりました。

結果、八九名の方が全国決選大会に勝ち上がり文部科学大臣賞を競う事になりました。惜しくも、通過されなかった出吟者の皆様には次回を期して頂きたいと思えます。

二〇〇名の本数別競吟に対しては、限定された時間を有効に活用すべく、審査員の交代も速やかに休憩もなく競吟が行なわれました。出場された皆様、応援の皆様、大会運営の各役員の皆様、そして長時間にわたり審査され

た各先生大変お疲れ様でございました。

令和二年・三年・四年と新型コロナ感染により、特に詩吟等声出しが大きく制限されて、教室の閉鎖、移動の制限、これを契機に高齢化による詩吟を止める方等、環境の厳しさの中においても、大会を通して出吟された皆様の熱吟に多くの方が感動を覚えたのではないかと思います。

此の出吟者皆様の熱意は、今後の吟界に大きな力になるものと感じられました。

令和五年三月二十五日

華やかに 爽やかに!!

“新春のつどい”

令和五年一月七日(土)江東区深川江戸資料館ホールにおいて、“新春吟詠のつどい”を五十名の会員と八十三名の一般の方たち、幼年二名のご参加、ご協力のもと開催されました。

コロナで令和三年、四年と中止させて頂きましたため、久しぶりの舞台を踏めた喜びと、懐かしい恩師、友、知人にお逢い出来たことが相重なり、華やいだ空間を作ることが出来嬉しい一日でした。

例年通り尺八・岡田純明先生、琴・尾崎歌涼先生の生伴奏で新春早々吟じられた幸せを皆様感じられたことと思います。

コンクールと違い、ゆったりとした雰囲気

の中で日ごろの研鑽をより向上させるためにも舞台経験を重ねる良い機会だと感じました。コロナの終息はまだまだ終わりが見えず、その様な中、大勢の参加とご協力に感謝申し上げます。

(南雲黎晶)

AFF2の補助を受けての

芸術祭典

*AFF2補助とは

「ARTS FOR THE FUTURE」の略文化庁による(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)文化芸術振興費補助金の事です。2は前年度に続いて今回が二回目の補助事業の事。

海老澤会長から文化庁の補助制度のお話があり、早速文化庁の担当事務局にお伺い致しました。条件は、詩吟団体が摘要となるのに非常にハードルが高く難しさを感じました。今回で七回目の有料舞台公演(芸術祭典)全国コンクール優勝者に文部科学大臣賞を冠とした、日本詩吟選手権大会を主事業にしている詩吟団体である事を説明致しました。又、コロナ禍により二年連続で事業の中止が余儀なくされた事を説明致しました。担当官より感触が得られ、補助申請の可能性があると確認致しました。但し、此の時点はAFF初回

事業の最中で次年度の補助事業は未定である中、肅々と準備を重ねて参りました。

令和四年二月十四日文化庁から二次募集が公表されました。

三月三日のAFF2の説明会に参加いたしました。此処から団体登録(国税庁に登録申請)や補助事業の証拠書面収集と予算計画に向けて海老澤会長以下本部役員の大変な努力により申請・差し戻し再申請とを繰り返す行方中、令和四年八月二日事業認定許可と六〇〇万円の補助対象金額が許可されました。詩吟団体では初めての事と聞いております。

事業完了後、実施報告により補助事業の項目によつては適合しないものはカットされ許可の金額から削除されます。

実施報告期限の年末が迫る中、証拠書面や契約書、領収書等の原本をお預けした行政書士が音信不通になり、まったく連絡が取れずAFF2事務局に事情を伝え、対応の相談致しましたが、実施報告が提出されてないと補助が出ないので、不足書面があつても期日までにまず実施報告書の提出が要請されました。急遽各種面を再現して期日までに提出致し、AFF2事務局に5度の実施報告をやり直しはありましたが、満額の補助金を受ける事が出来ました。

文化庁の補助を受けての芸術祭典は、音響照明と映像による、大迫力の舞台公演となり素晴らしい環境の中、出演者も迫力ある吟詠を披露出来たものと思います。

観客からは盛大な拍手が鳴りやまず、賛辞が絶えませんでした。

今回、AFF2補助の担当に指名されて貴重な体験をさせて頂きました。その中で文化庁の事務局各担当の皆様には、懇切丁寧に相談を受けて頂き、提出書面の補正を分かり易くご指導いただき感謝申し上げます。

AFF2補助 担当 武田誠風

武田先生に感謝

岡村心蒼

助成金満額が文化庁から当協会の郵便通帳に無事、振り込まれたとの、待ちに待った知らせに、役員一同、喜びと安ど感で胸がいっぱいになったことを思い出します。

それにしても今回の件は武田副理事長のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。最初のリサーチから申込書類(段ボールいっぱい相当量)の作成。文化庁担当者、司法書士の先生との度重なる打ち合わせと調整。最終申告書類の確認等。

武田先生は自社現役社長としての激務の中で、寝食をさいてこの件に時間を費やし成し得てくれました。しかも無報酬。詩吟を愛する心。詩吟協会への愛がなかつたら到底できない事だと思えます。改めて感謝申し上げます。

お陰様で(日誌芸術祭典、「蟬しぐれ」)は後世に語り継がれる大成功で、多くの来場者の記憶に残る舞台になりました。

いうことを考えて多くの発表を楽しんできましたが、海老澤先生の舞台演出には、このアニメーション映像の登場のように、吟詠のイメージをメジャーイメージにする、憎いほどの工夫があります。このような、他の者が真似できない素晴らしい舞台演出を、私は秘かに「海老澤マジック」と呼んでいました。

そして物語の内容についての感想です。脚本は岡村心蒼理事長でした。私は小さい文字に弱く、原作の「蝉しぐれ」には、目を通すこともできず、当日の舞台発表のみで内容を知りました。どこまでが原作通りか。許される範囲での脚色上の書き換えもあると思いますが、主人公公平・四郎の父の無念と、親を思う平・四郎の優しさが、会場観客の心をよく捉え、素敵な吟詠ドラマが繰り広げられました。そしてふくと恋。幼い頃からの心奥の思いと、手に届かなくなった所へ行ってしまった運命の儚さ、そして心を通わせての一度の結びつき、この場面では、私も涙が出ました。芝居を見て感動するのは、誰にも似たような経験があるからでしょう。そして、その自分の経験は、このような一度の結びつきとは行かなかったことでしょうし、そのクライマックスの一コマは、すべての観客の心に深く残りました。

最後に出演者の皆様へのメッセージです。皆様本当に素晴らしかったです。どのくらいの回数のお稽古をされたかは判りませんが、

本当に素晴らしい吟詠発表でした。私自身、自分の吟詠には個性重視で吟じますが、皆様は、個性を抑えて調和のとれた吟詠でした。全体調和を重視した、日誌協の強い団結を見ました。

海老澤名誉会長と岡村理事長の息の合った創作作品は、日誌協の宝です。一発の打ち上げ花火で終わることなく、出演者を交代しながら、発表しましょう。次回は私も出演させていたいただきたいと思います。



◆◆ 催しのご案内 ◆◆

- ◎日本詩吟協会総会
期日 令和5年8月12日(土)
場所 曳舟文化センター
- ◎第35回 日本詩吟選手権大会
◎神奈川地区予選会
期日 令和5年9月28日(木)
会場 横浜市関内ホール(小ホール)
- ◎東京西部地区予選会
期日 令和5年10月9日(祭)
会場 中野区野方区民ホール
- ◎千葉北部地区予選会
期日 令和5年10月27日(金)
会場 あびこげやきつらふれあいホール
- ◎さいたま地区予選会
期日 令和5年11月9日(木)
会場 大宮さいたま市民会館
- ◎千葉南部地区予選会
期日 令和5年11月17日(金)
会場 船橋市勤労市民センターホール
- ◎東京東部地区予選会
期日 令和5年12月8日(金)
会場 江東区亀戸カメリアフラザホール
- ◎福島本部決選大会
期日 令和5年11月23日(祭)
会場 郡山ミュージカルがくと館
- ◎栃木本部決選大会
期日 令和6年1月21日(日)
会場 宇都宮市南図書館ホール
- ◎日本詩吟選手権大会 首都圏本部決選大会
期日 令和6年3月2日(土)
会場 曳舟文化センター ホール
- ◎日本詩吟選手権大会 全国大会決選大会
期日 令和6年4月21日(日)
会場 曳舟文化センターホール
- ◎新春吟詠のつどい
期日 令和6年1月6日(土)
会場 江東区深川江戸資料館小劇場

寄稿

文部科学大臣賞に輝いて!!

野口節生

この度は文部科学大臣賞という栄誉ある賞を頂戴して心から喜んでいきます。当日の審査員の先生方、大会を運営して頂いた役員の先生方に感謝申し上げます。詩吟を長い間続けていると、このように詩吟の神様から褒めて貰えることがあるようです。

詩吟を初めて二十一年になります。私をこの道に入れて頂いた棚本岳水先生（現、さがみ岳風会会長）より、詩吟のいろはから指導を受けた頃が懐かしく思い出されます。始めて二、三年目の頃は稽古自体が楽しくて仕方がなく、仕事が終わった夜に毎日一時間以上飽きることなく自主練をしていたように記憶しています。それから数年が経ち、準師範の免状を頂き、教室を開くことになりましたが、生来の歌好きから歌謡吟詠の教室を開くことを許可して頂きました。歌と詩吟を教える難しさはありますが、詩吟人口よりも歌好き人口の方が多いと思います、生徒を集めるのも苦労が少ないと考えました。歌好きの仲間五人に声掛けをし、教室をスタートすることが出来ました。

人に教えるとは勉強になるとよく言いますが、正にその通りです。今までは、自分一人が吟じていれば良かったのですが、いざ人に教えるとなると何をどう教えれば良いのかと悩みます。教えるための教材もないことが分かります。一から自分で作り始めました。そんな試行錯誤を繰り返しながら十年以上運営しています。いくつか作った教材の中に、コンクール挑戦者のためのマニュアルがあります。自分の過去も失敗を繰り返さないため、普段の練習方法から始まり、コンクール当日の行動の仕方まで多岐にわたります。勿論、筆者自身もこのマニュアルに沿った行動をしています。その一例をいくつか紹介します。練習方法としては、①必ずしも通し練習にこだわらない。自分の練習したい箇所を中心に練習する。②仕上げに行う通し練習は原則一回だけにする。一回にこだわっているのは、コンクールもやり直しはきかないからです。この通し稽古は必ず録音し出来ればえを確認する。③普段から十八番を準備しておく。最低でも十題程度は用意しておくと思えます。

これは、その年のコンクールの吟題が決まってから、慌てて練習を開始するのではなく、普段からある程度自分のレパートリーを用意しておくという意味です。尤も、日本詩吟選手権大会は吟題が自由ですから話は別かも知れません。当日の行動としては、①発声練習は会場に着く前に済ませておく。例えば、カラオケボックスに行き、声出しをする等。②本番までは声の状態を維持するためにのど飴や温かい飲み物を摂るようにする。③本番一時間くらい前までには、その日の吟の通し練習をする、等です。今回の決選大会でもこのやり方を踏襲しましたので、本番に際しても慌てることなく、自分の声の維持とコンテロールが出来たように思います。

ここで少し歌謡吟詠の話をしめます。今回選んだ吟題『秦准に泊す』も実は歌謡吟詠の中の吟として取り入れて練習していました。歌謡吟詠の一部として詩吟の練習をすることで筆者の気付きいくつかの利点があります。一つ目は、吟の前に歌うことでそれ自体が発声練習になることです。歌謡吟詠それ自体の練習という場面と、吟詠の練習のために歌謡吟詠の歌を活用するという二面性を持っていると思います。二つ目は、歌と吟とで関連性を持たせることで、歌の詩情表現をしながら、その延長上で吟じることにより、吟の詩情表現をしやすい出来るという利点があります。

三つめは、長時間歌い、吟じることでスタミナがたきます。歌謡吟詠になると最低でも五分間歌い、吟じることになり、結構体力・気力を要します。絶句一題、短歌一題で声枯れしないよう、ジョギング感覚で歌謡吟詠を練習しています。

コンクールというと、以前は強い吟が良いのではないかと、審査員も強い吟を好むのではないだろうか、等と根拠のない議論や思い込みをしていた時期がありました。でも今はそういう考え方は必要ないと言いつつ、自分がこれと思う吟題を選び、しっかりと吟じることが出来ればその吟題でよいのだと。

私の詩吟のゴールは、人を感動させるような吟をしたい。心地よいと言われる吟をしたいことです。そのため練習を日々続けていく、それに尽きるような気がします。思いが大事、日々鍛錬是好日。

プロフィール

野口節生（吟号：撰粹）

昭和24年3月31日生

吟詠深粹流深粹会所属

撰風歌謡吟詠スクール代表

日本伝統文化吟友会常任理事

クラウン吟友会会員

投稿

志有るところ土有り

日本詩吟協会・顧問 浪口宗神

本協会は昭和六十二年に創立され今日に至っております。

創立以来すでに四十年に垂んとする年月を重ねてきたことになりましたが、これは一見易しいことのように思えて、実は極めて難しいことでもあります。

そもそも協会とは、同じ目的のために会員が協力して設立し維持する団体であります。同じ目的と言っても幅があり、又個々の意思には差があるのが常であります。これに長年統率し維持してゆくのは容易なことではないからであります。当初のことは良く存じませんが、私の知る限りでも本協会も幾度か大きな試練に直面したことがあります。しかし、その度これを乗り越えてきた。ただでなく、それを次へのエネルギーに変えて発展を続けてまいりました。これは偏に優れたリーダーに恵まれ、更にこれを支える役員諸氏の献身的な努力と心一つにした協力の賜物と言えましよう。

顧みて思うことは、本協会は「吟詠の普及と発展に寄与する」という目的に対して、「より広く、より高く、より大きく」というスローガン、つまり「志」を常に掲げてまいりましたが、この「志」への共感が目的への小異を

捨て大同に従う一致協力を維持する大きな力になっていったということでもあります。「より広く」とは、賛同する人は誰彼の区別なく受け入れる「寛容性の広さ」であり、「より高く」とは、吟詠の芸術性進化をめざす「向上心の高さ」であり、そして「より大きく」とは、吟詠の普及によって健康で心豊かな国作りに貢献するための「より多くの大きな力」であります。つまり、単に吟詠の普及と発展というだけでなく、何故に普及発展を目的にするのかと言う哲学ともいえる「志」が、多くの人の心一つにし、特にトップリーダーの「志」がぶれることなく一貫していたからこそその成果であり、深く敬意を表するところであります。まさに「志有るところ土有り」で海老澤・岡村両先生のまたとない名コンビによる卓越した指導力の賜物と言えましよう。

日本社会は血縁に始まり、武士の台頭により地縁社会となり、明治期の富国政策以降は企業主体の職縁社会に変わり、現在は趣味趣向や各種の非常営利団体等が中心をなす好縁社会であると言ったのは、今世紀初頭の経済白書でありました。これを受けて公益法人や非営利法人その他に関する法制度も改められ、国策上も益々重視されております。

本協会はこの時代背景のもと、まさに社会的使命を負う団体として、「より広く、より高く、より大きく」の志を貫き、今後更なる発展に向けて心一つに邁進してゆかねばなりません。

日本詩吟協会指定伴奏CD

日本詩吟協会指定の伴奏CDは、男性用・女性用合わせて六種類あり、それぞれの特色を簡単に紹介してあります。詩の内容に合ったものを選んでください。ケントミュージック社製

一、静麗雄烈（絶句用）

男性用 水二本、五本
女性用 四本、一〇本
二五〇〇円

●静麗雄烈の四曲に七音階、二八曲収録
●この伴奏は漢詩全般に使用できます

- ・静：風景・叙情・懐古。静かな吟に
- ・麗：風景・叙情・静寂。美しい吟に
- ・雄：雄大・勇壮・強吟。雄大な吟に
- ・烈：勇壮・烈々・強吟。勢いのある吟に



二、哀・彩・凜（絶句・和歌用）

男女兼用 水一本、八本
二五〇〇円

●哀・彩・凜の三曲に九音階、二七曲収録
●前奏は明確になっているが、前奏以外（後奏を含む）は明確に表現せず、多少のズレにも対応できません

●絶句・和歌兼用伴奏曲です

- ・哀：哀しく切ない吟や和歌に
- ・彩：艶やかな吟や和歌に
- ・凜：凜々しい吟や和歌に



三、涼剛唐俳（絶句・俳句用）

男性用 水二本、四本
女性用 五本、一〇本
二五〇〇円

- 涼剛唐俳の四曲に六音階、二四曲収録
- 弱吟から強吟、中国唐詩や俳句に使用
- ・涼：透明感や清涼感のある吟に
- ・剛：弱吟から一般の吟まで
- ・剛：力強く、意志の強い吟に
- ・唐：雄大な吟から強吟まで
- ・唐：大陸中国の開放的のどかな吟に
- ・俳：俳句用



四、涼短・静短（絶句・和歌用）

男女兼用 水二本、一〇本
二五〇〇円

- 静麗雄烈の「静」と涼剛唐俳の「涼」の二曲、「吟詠時間一分五六秒」を一分四五秒に短縮。前奏は変わらず
- 静短・涼短の各一二音階、二四曲収録
- コンパクトな吟、五音絶句、和歌等に



●お申し込み・お問合せ先

伴奏CD担当 吉原秀峰

携帯 〇九〇一三五九七七一五二六

FAX 〇四六六一二七一三三九〇

※お気軽にお問い合わせください。

なお、電話に出られないこともあります。その場合はショートメールをご使用ください。折り返し連絡いたします

地区だより

ケント友の会「歌謡吟詠祭」

日時 令和五年十月六日（金）

会場 江東区江戸深川資料館劇場

当日の一般入場者 一、五〇〇円

お問い合わせ 〇九〇一七二七三・七三三（岡村）

質問：詩吟上達の効果的な方法は！！

好奇心から

今話題のチャットGPTに聞いてみたら？

詩吟を上達させるための効果的な方法は以下の通りです。

- 1 基本の練習から始める…正しい基本姿勢や発声法を身につけることから始めましょう。呼吸法や声の出し方をマスターすることで、詩吟の基礎が固まります。
- 2 正確なリズムと節の把握…詩吟はリズムと節のバランスが重要です。テキストのリズムや節を正確に理解し、適切な抑揚で読む練習を行いましょう。
- 3 テキストの理解と解釈…詠む詩の内容や意味を深く理解することが重要です。詩の背後にある情感やメッセージを把握し、それに合った表現を心掛けましょう。
- 4 先輩や指導者からのアドバイス…詩吟の指導者や経験豊富な先輩からのアドバイスを受けることで、技術や表現力を向上させることができます。フィードバックを受けて改善点を把握しましょう。
- 5 録音や動画で自己評価…自分の読みを録音や動画で録画し、客観的に評価することが役立ちます。自分の声や表現を振り返り、改善点を見つけましょう。
- 6 継続的な練習…詩吟は習得に時間がかかることがあります。毎日少しずつでも練習する習慣をつけ、徐々に技術を向上させましょう。

7 公演や発表の機会を活用する…公演や発表の機会を活用して、自分の成果を披露することが重要です。緊張感や実際の舞台経験を通じて、詩吟の表現力を高めることができます。

8 他の詠み手を聴く…上級者や優れた詠み手の詠みを聞くことで、新たな表現やスタイルを学ぶことができます。他の詠み手から刺激を受け、自分のスキル向上に活かしましょう。

9 感情の表現…詩吟は感情を表現する芸術でもあります。詩の内容や雰囲気に合わせて適切な感情を込めて詠むことを心がけましょう。

10 自分なりのスタイルを見つける…技術を向上させるだけでなく、自分なりの個性的なスタイルを見つけることも大切です。他の詠み手との違いや特徴を大切にしましょう。詩吟は継続的な努力と専念が必要ですが、上記の方法を組み合わせて取り組むことで徐々に上達していくことができます。

以外とまともなことが返ってきました。

(記/野口)



地区だより

第九回 令和ドリム

春夏秋冬詩吟の仲間たち

期日 令和五年十一月二十四日(金)
会場 アクト21ホール
連絡先 090-7273-7735(岡村)

設立記念大会

一般社団法人 朗詠鳴鳳十華の会

代表理事 武島鳳珠
日時 令和五年十月十五日(日)
会場 サンパール荒川(荒川区)
連絡先 090-3232-3339(武島)

創流十五周年

お祝いの会

期日 令和六年四月七日(日)
会場 藤沢市民会館ホール
主催 吟詠道秀峰流
宗家 吉原秀峰
連絡先 090-3597-5126(吉原)

編集後記

九月に入り秋の訪れを待望するなか、近年にない猛暑は、今しばらくおさまりそうもない気配です。その様な中、永年会長を務め協会の最重鎮という存在でありました海老澤宏升会長が退任されました。会長が永年に亘り築かれてきました様々な財を会員一同しっかり受け止め、益々発展させるべく努力していく思いであります。ありがとうございました。(南雲)